

第3回

様似写真愛好会SPA

北海道カメラ女子の会

写真展

渡邊真弓写真展 & トークショー

(北海道カメラ女子の会 代表)

特別出展

- ・とんがりロードカメラ女子の会
- ・写真文化首都「写真の町」東川町
- ・えりも町地域おこし協力隊AMURO隊員
- ・Mitsugu Nakagawa Life in New Zealand
- ・地域密着探検隊M隊長

～カメラ目線からの地域の魅力発信、
写真の楽しさと
仲間との出会いを求めて～

写真展 2023年10月3日(火)～8日(日) 9:00～18:00

(最終日は16:00まで)

会場 様似町中央公民館 文化ホール・ギャラリー21

・出展作品講評 10月7日(土) 14:00～

・トークショー 10月7日(土) 16:00～

講師 渡邊 真弓 氏 (北海道カメラ女子の会 代表)

【入場無料・申込不要・どなたでも参加できます】

【会員限定・要事前申込】講師 渡邊真弓氏と町撮り
特別企画「船上から見た様似」

10/8(日) 10:00～参加料(ランチ付) 5,500円

お問い合わせ 様似町教育委員会(生涯学習課社会教育係) 電話 0146-36-2521

北海道様似郡様似町大通1丁目 様似町中央公民館内

ART
GALLERY
HOKKAIDO

公民館
いろいろ
アート展

【共催】様似町教育委員会・様似文化協会・様似写真愛好会SPA

【後援】北海道えりも岬とんがりロード観光協議会・(一社)浦河観光協会・様似町観光協会

【協力】北海道カメラ女子の会・とんがりロードカメラ女子の会・写真文化首都「写真の町」東川町・
地域密着探検隊・えりも町地域おこし協力隊

渡邊 真弓 わたなべまゆみ

写真家 / “allo?”渡邊真弓写真事務所代表

法学研究科修士課程を修了し、大学職員として就職。初ボーナスで買ったポラロイドカメラ690SLR で写真と本格的に出会う。その後数回の個展、共著『Cute Photographer～おしゃれな写真が撮れる本～』（2008年）の執筆、写真教室など活動が広がる。

在職中に京都造形芸術大学写真コースに入学、卒業し、独立。現在に至る。

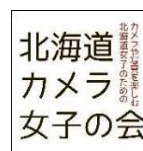
「写真と一緒に暮らしを楽しむ」「写真と一緒に新しい出逢いや発見を」をキーワードに、写真教室企画、執筆など幅広く活躍。写真教室の受講者は2500名を超え、3000名を集客するフォトフェスCuiCuiを2016年から開催するなど、北海道の写真文化に寄与している。

日常をモチーフに「時の有限性」「薄れゆく記憶」について考察する作品を制作。様似町で2021年に展示した作品「そこにある」は、東川町文化ギャラリー、富士フィルムイメージングプラザ東京、富士フィルムイメージングプラザ大阪、フジカラー北陸で企画展巡回した(2022年～2023年)。京都芸術大学通信教育学部学写真コース研究室賞受賞。

京都芸術大学通信教育部美術科写真コース非常勤講師、天使大学看護栄養学部栄養学科非常勤講師、フォトフェスCuiCui事務局代表、北海道カメラ女子の会代表を務める。

Web : <http://www.allo-japon.com/>

Instagram https://www.instagram.com/allo_mayumi/



北海道カメラ女子の会とは：SNSとリアルをミックスし、北海道のカメラ・写真が好きな女性を緩やかにつなげるコミュニティ。2022年8月現在会員650名を突破。2019年からえりも岬とんがりロード観光協議会と地域振興・観光推進プロジェクトを推進中。写真を通じた地方創生事業に取り組んでいる。

展示する作品「eternal now (永遠の今)」について

現在の制作の原点となった大切な作品です。

2015年に制作し、2016年富士フォトサロン札幌で展示して以来、久しぶりの展示です。ぜひ会場でご覧ください。

「eternal now (永遠の今)」コンセプト

二度と同じ時間は来ない。

過去に戻ることもできない。

私たちは絶えず前に進むしかないとても残酷な流れの中にいる。

日々の暮らしは慌ただしく過ぎていく。

時間は有限だから、すべての物事に時間を使うことはできない。

身近で個人的なことや関わりほど、ついつい後回しにしてしがいがちだ。

順位をつけてこなしていく暮らしの中では、見ているはずの景色でさえ曖昧で、ときの中で流れ去っていく。

気がついたら更地になっていたあの場所にどんな建物が建っていたかはっきりと思い出せない。

にわか雨がふったことを帰り道の濡れた地面で初めて知る。

見ているようで見ていない。

きっとそのとき意識は目の前の景色ではなく自分で決めた順位のなかにある。

自分の意識をこのときに取り戻したくて、目の前にある景色のきらめくさまを宝物探しのようにつとすく集めていく。確かに存在した、でもまた見ることはできない儚く美しい景色たち。

そうやって日々の中で積み重ねることで、ささやかで小さいけれど確かに大切にしたいものを大切にできているかを確認する。

そういう「今」の繰り返しがわたしの未来や過去になるのなら、

絶えず前に進むしかない時の流れというのものも、案外悪くないのかもしれない、そう思う。

